

# ウトナイ湖通信



No.230

2023年7月号

湿原の女王と言われるホザキシモツケ。例年7月に開花する。

ウトナイ湖は、周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。そのほとりにあるウトナイ湖野生鳥獣保護センターから、情報をお届けします。

## 7月のイベント情報

### お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

7月9日(日)  
10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内するガイドウォークです。荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

定員:先着10名程度

対象:どなたでも

(小学生以下保護者同伴)

事前申込:なし。直接当センターへ



野生動物に学ぶ救護セミナー  
～苦小牧にも  
シマフクロウがやってくる!?～

7月22日(土)  
10:30~12:00

シマフクロウの生態や保全活動についてお話しします。

講師:松本潤慶(日本野鳥の会チーフレンジャー)

定員:先着30名程度

対象:どなたでも

(小学生以下保護者同伴)

事前申込:7/1(土)~7/21(金)

開館時間に電話で当センターへ

### レンジャーと一緒に ウトナイ湖の夏の生きもの探し

① 7月29日(土) 子ども向け  
② 8月6日(日) 大人向け  
①②ともに10:30~12:00

ウトナイ湖オリジナルの生きもの図鑑を持って、レンジャーといっしょに生きものを探しに行きましょう!

定員:事前申込20名程度

対象:①中学生以下とその保護者、

②どなたでも

(小学生以下は保護者同伴)

事前申込:7/1(土)~それぞれ前日

まで、開館時間に電話で当センターへ

夏休み子どもスペシャル  
～野生生物を守る!  
環境省と獣医師のお仕事体験～

8月5日(土)  
10:00~12:00

当センターを運営している環境省と苦小牧市の取り組みの理解を深め、人と野生動物の共生づくりを考えます。

定員:先着10名

対象:小学校3年生~6年生

事前申込:7/8(土)~8/2(水)

開館時間に電話で当センターへ

### 市民ギャラリー

第5回奥山博美点描画展  
「勇払原野の花と鳥」

会期:7月2日(日)~7月29日(土) 展示:奥山博美氏

内容:勇払原野で実際に見られる花と鳥を、はんだごてで木の板に描いた点描画を展示します。



◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苦小牧市植苗156-26 / 道の駅となり

開館時間:午前9時~午後5時 / 入館無料

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

検索

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムーくん



~ ウトナイ湖 ~

・国指定鳥獣保護区特別保護地区  
・ラムサール条約湿地  
・東アジア・オーストラリア地域  
・フライウェイ・パートナーシップ

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。



カルテNo. 23-10

## スズメ

### 原因：ネズミ捕り



搬入時、粘着シートからスズメをとりはずしている様子



処置中の様子

5月19日



6月6日

リリース

倉庫内にて、ネズミ捕りのための粘着シートにくっつき、動けなくなっていたところを発見され、同日中に保護センターに搬入。粘着シートについたままの状態だったため、ただちにシートからスズメをとりはずした。しかし、粘着物質が全身に付着していたため、個体に負担がかからないよう、3日間にかけてこれらを除去した。その後のリハビリは順調で、保護から3週間後、リリースとなる。

スズメ (スズメ目 スズメ科)

Eurasian Tree Sparrow (英名) *Passer montanus* (学名)

すずめ

雀

(漢字名)

全長14cm。市街地や住宅地、農耕地など、人の住む環境で最も身近に存在している種です。北海道でも1年を通じ観察することができます。雌雄同色で、全体的に茶色い体に黒い縦斑があります。雑食で、雑草の種子や昆虫などを食べます。4～8月に2～3回ほど繁殖を行うと言われています。

## トピックス



レンジャーといっしょに春の生きもの探し  
4月29・30日に、日本野鳥の会レンジャーと当施設のボランティアの案内のもと、春の生きもの図鑑を使った観察会を実施しました。図鑑に観察したことを記録して、参加者のオリジナル図鑑を完成させました。次回は、夏の生きもの探しを、7月29日と8月6日に開催します。



ポンポンでキビタキを作ろう ～ちょいむず～  
5月20日に、当センター職員を講師として、工作を通じて野鳥に親しむイベントを実施しました。今回はキビタキがテーマです。黒と黄色の複雑な模様のため少し難しいデザインでしたが、ポンポンメーカーに毛糸を巻いて、みなさん可愛いキビタキをそれぞれ作られました。



## ボランティアコーナー

当センターボランティアの吉沼さんにインタビューしました。北海道大学総合博物館のボランティアで、動物の骨格標本作成に関わられています。

羽根標本づくりで大変なことや、予想外のできごとなどはありましたか？

【剥製や標本を制作】吉沼 利晃 氏

難しいことはありませんが、羽根を抜く際に無理に引っ張ると千切れてしまうので、羽軸を持って前後左右に動かして、接着部分を緩めるなどの工夫が必要です。また、風切羽と尾羽は種によって枚数が決まっているので No をつけて並べています。しかし、換羽中だと羽が途中で無い個体もあってきれいに並べられないこともありました。幼鳥だと大変ですね。

見る方に伝えたいことや、見ていただきたいポイントはありますか？



羽根標本づくり研修で講師を務めてくださった吉沼氏

「いろいろな羽があつてきれいだなぁ」と思ってもらい、そこから羽根の落とし主や、羽の色の違いや役割などに興味が広がると嬉しいです。

また標本で展示されているものの大体は人間の生活が原因で死んでしまった者たちです。羽根標本を通して野鳥に関心をもってもらい、野鳥と人間が共生できる社会を考えるきっかけになってくれるといいですね。

## 【ウトナイ湖・クイズ】

## ウトナイ湖 お楽しみコーナー

野鳥は子育てのために巣を作りますが、巣の形は野鳥の種類によって様々です。次の2枚の写真の内、自分で木に穴を開けて、その中で子育てするのはどちらでしょうか？

巣は、お皿型、おわん型、ハンモック型、木の穴など様々で、それぞれに合った自然環境が必要です。



【A】アオジ



【B】コゲラ

※答えは4ページの下にあります。

公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



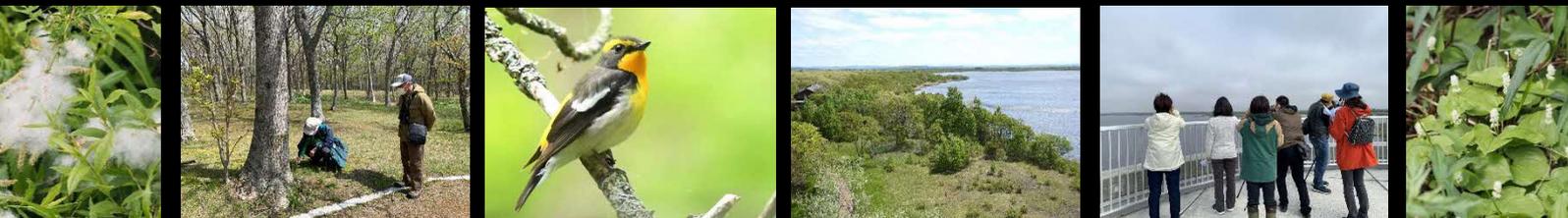
Instagram



facebook



Twitter



# レンジャーのおすすめ自然情報



【ホザキシモツケ】  
径6mmほどの花が穂の形に集まり咲く低木。北海道の湿原を代表する夏の花。



【フタスジチョウ】  
大きさ43~46mm。ホザキシモツケの仲間を食べて育つため、ウトナイ湖ではよく見られる。



【エゾマイマイ】  
大きいものだと、殻の径が40mmほどになる。殻は右巻きで丸く、頭に線が入らない。



【ナガボノシロワレモコウ】  
長さ20~70mmの白い尾のような花の穂をつける湿原の植物。湖に近い観察路沿いで見ることができる。

ホザキシモツケの花が見頃の季節です。この植物は、本州で数少なくなっていますが、ウトナイ湖をはじめ北海道では多く見られます。花はフタスジチョウやハナムグリなどの昆虫が集まる観察スポットです。

これから湿度が高くなることでエゾマイマイなどの陸貝も見られ始めるでしょう。

野鳥の子育ては後半に入り、巢の外で幼鳥がエサをもらう姿が見られる時期です。今の季節ならではの姿ですが、親鳥の邪魔にならないように注意しましょう。



## ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



facebook



Twitter

## 自然観察路ガイドマップ【夏】

